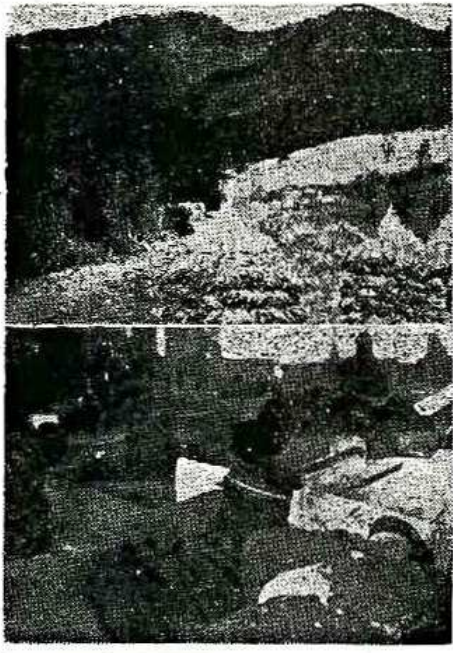


# 豊橋岩崎の大山火事やっとな消える

## 一億円が一夜で灰

### 少年のタバコの不始末

十八日午後三時三十分頃、豊橋市岩崎町内山崎内の区有林から出火しているのを豊橋消防署職員が発見し、直ちに消防署員、団員などが出動して消火に当たったが、折からの風況乾燥と隣街風速十五分を記録する強風のため、火はみるみる東南方面に燃え広がって、山林百五十坪を焚いて十五時間以上経って燃え終り、十九日朝七時頃、火勢が衰え、消火のため出動した人員は延べ二百五十人近くを要するという惨状として、翌朝大山火事を記録するに至った。



豊橋市では火事発生の同時に、火たので、庁舎内に山火対策本部 職員ほとんど総出で応急対応に万 共に、午後五時四十分には豊川自衛隊の出動を要請するに至り、消防隊の出動を要請するに至り、市内消防団員千九百人、消防職員 恐怖の一夜が明けた雲谷山火事現場の発足は昭和二十三年以後で、二十七年二月二十四日多米町の言、有林六ヶ、同三十二年四月十日多

共に風が落ちるを契機に火勢も漸く衰え見るに至った。山火対策本部では引続き豊川自衛隊員二百十人の出動を要請して、再燃することのないよう万全の対策を講ずると共に、消防団員も引続き警戒に当たっている。市消防本部の調査に依れば、燃焼

## 危なかつた雲谷部落

### 百米手前まで延焼

雲谷公民館の山火対策本部には、破れ切った消防団員、地元民が、さきの上には横になり込んで、連はれてくる炎を避けて、手をつけないほど、思いもよらぬ大火に疲弊困窮、後と

カメラのニヒなら 永村カメラ堂 TEL. 3320

米町赤岩の山林約一・五ヶ、同三十二年二月二十日杉山町の民有林約一・六ヶとなつて、今回の山火事は、なせこのよう大火隊員の協力と負傷者が一人も出な

面積は国有林百二十ヶ、区有林三十ヶ計百五十ヶで燃焼しては国有林内にあった松、杉など約一立方方が燃失しており、これだけでも鳥籠り橋は、僅か近づくに達している。出動人員は消防団員千九百人、消防職員百二十人、警察官四十人、自衛隊員百十人、地元三川町民約百人、姓林からの応援五十人、警備隊員二十人、三川町からは消防三台と三十人の消防団員が動員されている。市

神戸服 マルヨ

事している人のために、きり版した五百食とかはん、三食を臨時に提供に配給した。原因については消防署の調査によらば、豊川用水急流田支線工事の損傷人夫A少年(このタバコを吸うためマッチを使用し、そのマッチを十分消火をたしめず乾かし、持っている草むらに捨てたためこの草むらからの火が四方に燃え広がって遂にこの大火に至ったものとみられている。要知用水公園豊川事務所佐野愛知及び片桐同課課長は十九日、豊橋市山火事対策本部を助け出火原因が同事業所豊田支線工事損傷の人夫A少年(この過失からこの大火に至ったものであるとの豊橋市消防署の発表に驚き、持ちから第一会議所で開催中であつた対策本部に出席して陳謝を表明するところであつた。同事業所としては火災の取締り

川所長らか謝意 対策本部へ 豊橋市山火事対策本部を助け出火原因が同事業所豊田支線工事損傷の人夫A少年(この過失からこの大火に至ったものであるとの豊橋市消防署の発表に驚き、持ちから第一会議所で開催中であつた対策本部に出席して陳謝を表明するところであつた。同事業所としては火災の取締り

大井屋

ついでには、特に難症に行なつていた矢先、工率下職員一人夫のちよつとした不注意からこうじた大火に至つたことについては深く遺憾をかけた旨を表明していた。この山火事で、同事業所計二トン、ネル工業製の動力線約五百メートルが燃失したため、岩崎ト

# 一キロにわたる火の海

## 豊橋の 山火事 市民も不安な表情

別面所報—十八日夕方の豊橋市岩崎町地区の山火事現場は、国道一号線から約二、北へはいったところ、高さ二三百足の山が断崖絶壁までつづいている。季節風にあおられたため、消防、警察両署は態勢を整える暇もなかった。地元の岩田、多米の消防分団員が「火事だ」という声に外へ出る。松林が一面に火の海だったといっているように、朽れ草や松がすごい勢いで山頂へ燃え上がった。

出火点の松林から約二百メートル離れた町長尾、農業山本ふじえさん(五七)は「地元民が松の枝などでたき消してもおよばなかった」とい、地元の岩田甲生約二百人もかけつけたが、手をこまねくた

け。全市の消防車が出動し、サイレンがけたたましく鳴りひびいた。約一時間後には消火隊も勢ぞろいしたが、各様の車が入り乱れて交通整理や通行とめに忙しかつた。火勢は早く、頂上をなめ尽くした火は、裏側の同市豊谷町へ延焼しよう線を描き、帯状になって下へ燃え下がった。長さ約一、二にわた

たつてあかめかと燃え、国鉄東海道線の車庫や国道一号线を走る自転車からもはつきりと見え、山の下の二川町民も仕事の手につかぬといった表情で、夜おそくまで聲に立ってながめていた。

火が約二、余に迫った文化財の多い普門寺には、小沢、前芝分団員ら六十人と、消防署員六人が、境内に消防車など三台を備え、境内の池にホースを入れ、流れてくる煙を見ながら緊張の表情で待機していた。

豊橋市役所では青木助役、豊田収入役のほか関係課長が午後八時から会議を開き、たきだしや食糧の確保などの善後策を話し合った。この結果とりあえずパン千人

分と乾パン三千食を確保、豊谷町へ送ることもたき出しは地元へ頼んだ。

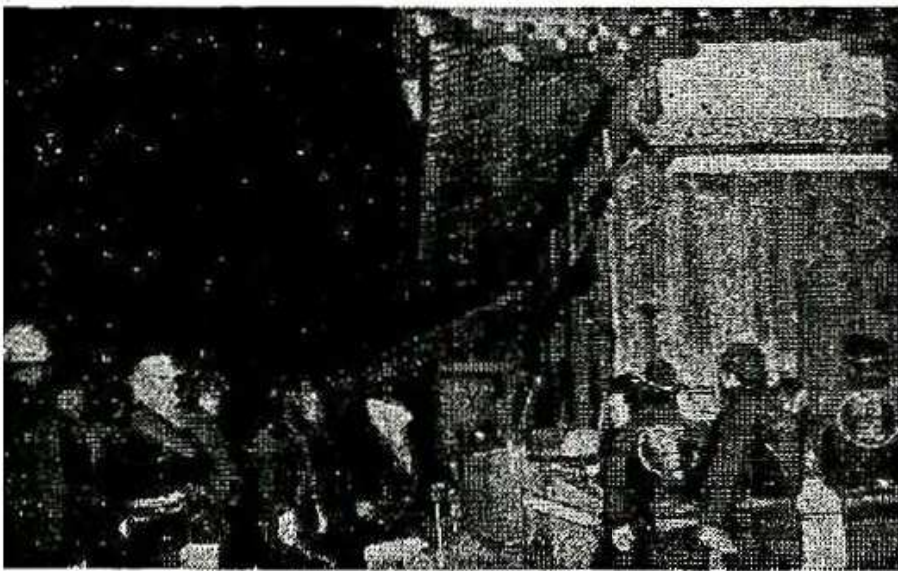
同市内のおもな山林火災は市消防本部の発足した昭和二十三年以後で▽二十七年二月二十四日多米町の豊有林約六畝▽三十二年四月十日多米町赤岩の山林約一・五畝▽三十五年二月二十日杉山町の民有林約一・六畝があるほかは最近にはない大火で、仲井普門寺住職は昭和初年に寺のあふないほどの大火があったという。

### 火事に注意を

豊田消防本部も警告出す  
最近豊田市でゴミ焼きや野焼きの火が燃えひろがって消防車が出動する騒ぎがあり、市消防本部では「空気が乾燥している(十八日四・七時)時だけに注意してほしい」と警告している。

①風の強い時は屋外で火を使わないでほしい。やむをえない時はじゅうぶんに消火準備をしておいてからする②くわええはこで扱いたり、みだりに吸いながら捨てない

③原野や山林の火入れ、土手焼きはしないように。とくに老人や子どもにやらせることは火災の心算だけでなく危険だからさせない。



普門寺の國室を守る消防団員



避難する北山農営住宅の人たち